

日本語と中国語の受け身文

——和文中訳指導に関する試論——

平石 淑子

1. はじめに

2007年度～2009年度までの三年間に亘り、大正大学SLA研究会のメンバーとして、日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金による共同研究「日本語母語話者に対する外国語教授法の研究——外国語学習における母語干渉の分析を通して」に参加した。当該研究は、2010年2月に、三年間の研究の総括として「日本語母語話者の第二言語習得における問題点～英語・中国語・韓国語の場合～」と題するシンポジウムを行ったが¹⁾、その準備段階を含め、シンポジウムにおける発言、議論など、筆者にとって教えられることが多かった。本稿は三年間の共同研究及びシンポジウムにおける議論に基づき、その成果を中国語教育の現場においてどのように生かしていけるかということについて、試案を述べようとするものである。

既に述べたように、当該研究から筆者が学んだことは大変多いのだが、本稿ではその中から特に「受け身文」を取り上げる。それは当該共同研究の過程における孔令敬氏²⁾の「中国語では受身表現をあまり使わない」という指摘が興味深かったことによる。シンポジウムでは北京師範大学の宛金章教授が、外国語習得のためにはまず互いの文化に対する理解が必要であると強調された³⁾が、日本語では受身を使って表現する内容が、なぜ中国語ではそうならないのかを考えることは、互いの文化的差異を考える一つのヒントになるのではないだろうか。

ところで、日本語母語話者が外国語で作文する際、日本語から発想するのがやはり自然であろう。初学者であればあるほどその傾向が顕著であるのは当然であって、筆者はむしろそのことを生かして学習効果に結びつけられないかと考えている。中国語の「受け身文」の例文を覚えるのはもちろん基本的、かつ有効な方法だが、それと併せて、日本語のどのような表現が中国語では受身になるのか、どういった場合にならないのか、ということ日本語から発想していけないだろうか。それができれば、日本語母語話者の学習上の負担が

軽減され、また同時に、日中の文化的差異を知ることにもつながり、結果的に言語を通して互いの文化に対する認識、理解を深めることになるのではないだろうか。

2. 中国語母語話者に対するアンケート結果

当該研究では、日本語の特徴を知るために、日本語を学ぶ中国語母語話者及び韓国語母語話者に対するアンケート調査を行っている。全30問の設問のうち、日本語の受け身文に関する理解を問うものは以下の8問である。いずれも与えられた単語を使って、全体が自然な文になるよう作文させる形式の問題である。

(1) A：うちの犬が死んじゃったんです。

B：どうしたんですか？

A：(車・ひく→)。

(2) 帽子が(風・飛ぶ→)。

(3) 雨に(降る→)ひどい目にあった。

(4) 彼女は祖父母にとても(可愛がる→)。

(5) 子猫は友だちの家へ(もらう→)。

(6) 温暖化を防ぐためにたくさん(木の木が

(植える→)

(7) 毎日薬を飲むように

(医者・言う→)。

(8) (先生・ほめる→) うれしかった。

中国語母語話者の協力者は大学生を中心に107名、韓国語母語話者の協力者はやはり大学生を中心に103名であった。当該研究では日韓の比較も話題となったが、本稿では中国語教育がテーマであること、また筆者に韓国語の知識がないことから、韓国語母語話者のデータには言及しない。

それぞれの設問の回答内容は以下の通りである。ただし本稿では細かい異同、また誤用は不問としている。例えば「車にひかれる」を「車にひからたんです」、「車

にひかれたです」などと答えた場合は、受身を意識していると考え、正答と判断し、「車にひかれた」の項目に含めてカウントしている。合計が100%にならないのは、ここで問題とする受け身文と直接関わらない若干の誤答を挙げていないため、それらの詳細はシンポジウム予稿集を参照されたい。

| | |
|-------------|------|
| (1)車にひかれた | 61%◎ |
| 車がひいた | 5%○ |
| 無回答 | 26% |
| (2)風に飛ばされた | 2%◎ |
| 風に／で飛んだ | 11%○ |
| 風に飛ばれた | 56%* |
| 無回答 | 28% |
| (3)降られて | 70%◎ |
| 降って | 4%* |
| 無回答 | 26% |
| (4)かわいがられる | 46%◎ |
| かわいがってもら | 1%○ |
| かわいがる | 20%* |
| 無回答 | 33% |
| (5)もらわれる | 40%◎ |
| もら | 26%* |
| 無回答 | 29% |
| (6)植えられている | 53%◎ |
| 植えてある | 1%○ |
| 植えている | 1%* |
| 植えておく | 3%* |
| 植えた | 6%* |
| 植えなければならない | 2%* |
| 植えたい | 13%* |
| 無回答 | 27% |
| (7)医者に言われた | 54%◎ |
| 医者が言った | 9%○ |
| 無回答 | 30% |
| (8)先生にほめられて | 66%◎ |
| 先生がほめて | 4%* |
| 無回答 | 25% |

「*」を付したものが非文である。既に述べたように、我々は正答として受け身文を期待した(◎)のだが、必ずしも受身形を取らなくても正答となり得るもの(○)がいくつかあった。

中で最も誤答率の高い設問は(2)だが、その誤答のうち、突出して数の多い「風に飛ばれた」を「風に飛ばされた」の活用ミスであると判断するならば、「風に／で飛んだ」を含めた正答率は他に比肩して高くなる。またいずれの問題にも無回答が25%~30%程度あり、こちらの方はほとんど大きな差は見られない。むしろ無回答のおよそ30%を除けば、(3)、(7)、(8)は回答のうち大部分が正答と言うことになる。

ところで各問における日本語の期待された正答(◎:以下、「アンケート日本語正答」と言う)を、中国語母語話者は中国語でどのように表現するのだろうか。

- (1)(うちの犬が)車にひかれたんです。
狗被车轧／撞(死)了。
- (2)帽子が風に飛ばされた。
帽子叫／被风刮走／跑了。
- (3)雨に降られてひどい目にあった。
被雨淋了, 倒大霉了。
- (4)彼女は祖父母にとってもかわいがられている。
她爷爷奶奶很宠她。
- (5)子猫は友だちの家へもらわれていった。
(a)小猫送给朋友家了。
(b)小猫叫朋友(家)抱走了。
- (6)温暖化を防ぐためにたくさんの木が植えられている。
为了缓解气候变暖, 种了很多树。
- (7)毎日薬を飲むように医者に言われた。
医生叫我每天吃药。
- (8)先生にほめられてうれしかった。
受到老师表扬, 我感到很高兴。

(下線筆者)

下線は受身マーカーである。(1)、(2)、(3)は、中国語でも受身マーカーを使って表現されるが、(5)は受身マーカーを使用してもしなくてもよく、(4)、(6)、(7)、(8)は受身マーカーを使用していない。受身マーカーを使用した文では主語が受け手となるため、(7)の“叫”は、ここでは使役マーカーとして使用されていることがわかる。ここから、「れる／られる／される」を使用した日本語の受け身文が必ずし

も中国語の受身マーカーの使用に反映していないことがわかる。

但し、(5)は確かに受身マーカーのない文(a)が可能だが、(a)、(b)の主語はどちらも動作の受け手である“小猫”である。中国語には受身マーカーを用いない、いわゆる「意味上の受身」⁴⁾があることを念頭に置いておかなければならない。使役文と「意味上の受身」については後述する。

アンケートにもどって見ると、中国語で受身マーカーが使用される(1)、(2)、(3)の設問において、それぞれの受け身文の正答は(1)61%、(3)70%、(2)の「風に飛ばれた」を誤りとすれば正答は2%だが、「風に飛ばされた」の「さ」が脱落するミスと考えれば正答は58%となり、いずれも正答率が高い。それ以外の設問の受け身文の正答率は、(4)46%、(5)40%、(6)53%、(7)54%、(8)66%であるが、能動文も正答として考えれば、(4)、(5)、(6)の設問に対する正答率の低さが目立つ。これは日中の受け身文の差異を考えるヒントになるだろうか。

3. 日本語の受け身文

『現代日本語文法』⁵⁾は日本語の受け身文について、次のように定義している。

受身とは、能動文の主語であった名詞を主語とするのではなく、動作による働きかけや作用を受け人や物を主語として文を構成することである。

更に日本語の受け身文は、何を主語にするかによって、以下の三タイプに分類されるとする。

(一)直接受け身文

対応する能動文の補語の表す人や物(受け手)を主語とする。

受け手が誰であるかに情報の価値が無く、行われる事柄に焦点を当てようとする場合は受け手を言わないことがある。

(二)間接受け身文

対応する能動文の表す事態には直接的に関わっていない人物を主語とし、話し手がその人物と事態を主観的に関係づけ、事態と間接的な関係を持ったものとして表現するため、対応する能動文の描く事態とは異なる。一般に

迷惑を蒙っていることを表す場合が多い。

(三)持ち主の受け身文

対応する能動文のヲ格名詞やニ格名詞などの表す人や物の持ち主を主語とするため、対応する能動文とは同じ事態を描き出す。直接受け身文と間接受け身文の中間的な存在であるが、迷惑の意味は強くない。

(カッコ内筆者)

ここから、日本語の受け身文には対応する能動文が必ずあり、対応する能動文が描く事態と対照させることによって、三つのタイプは確定されることがわかる。アンケートの日本語正答が上記のいずれのタイプに属するのかわかるためには、それぞれに対応する能動文を考えてみればよい。

(1)車が(犬を)ひいたんです。

(犬が)車にひかれたんです。

(2)(私の/誰かの)帽子が風で/に飛んだ。

(私の/誰かの)帽子が風で/に飛ばされた。

(3)雨が降って(私は)ひどい目にあった。

→雨が降った。

雨に降られて(私は)ひどい目にあった。

→(私は)雨に降られた。

(4)祖父母は彼女をととても可愛がっている。

彼女は祖父母にととても可愛がられている。

(5)(友だちが家へ)子猫をもらって行った。

子猫は(友だちの家に)もらわれて行った。

(6)温暖化を防ぐために(誰かが)たくさんの木を植えた。

温暖化を防ぐために(誰かによって)たくさんの木が植えられた。

(7)毎日薬を飲むように(私に/誰かに)医者が言った。

毎日薬を飲むように(私は/誰かは)医者に言われた。

(8)先生が(私を)ほめたので嬉しかった。

(私が)先生にほめられて嬉しかった。

ここから(1)(4)(5)(6)(7)(8)が直接受け身文、(3)が間接受け身文、(2)が持ち主の受け身文となり、今から考えればアンケートにおいて、設問とする受け身文のタイプのバランスが悪かったという反省が残る。従ってこのデータから中国語母語話者の誤答が(4)(5)(6)の直接受け身文に偏っている

ことを指摘し、そこに問題があるとするのは難しい。

4. 中国語の受け身文

朱徳熙は中国語の受け身文について、次のように言う⁶⁾。

主語は必ずしも動作者を表すものとは限らないし、目的語もまた必ずしも受動者を表すものとは限らない。したがって、主語と目的語の相違を動作者と受動者の対立と考えてはならない。

この定義から、日本語の受け身文は必ず受け手が主語になるが、中国語ではそれが必ずしも言えないということがわかる。更に朱は、主語と目的語、動作者と受動者(受け手)の関係について、以下の三点を指摘する。

- ①主語と目的語が同時に現れると、多くの場合は主語が動作者を表し、目的語が受動者を表すが、主語に立つ語と目的語に立つ語の位置を取り替えても動作者・受動者の関係は変わらない場合がある。

(例)雨布盖着汽车。

[防水シートが車を覆っている]

汽车盖着雨布。

[車に防水シートが覆ってある]

(車が防水シートで覆われている：筆者)]

- ②“我写了 [私は書いた]”と“我写信了 [私は手紙を書いた]”の間に動作者と受動者の関係における対立はないが、動詞が目的語を伴うか否かによって、意味が全く異なる場合がある。

(例)北京队打败了。

[北京チームが敗れた]

北京队打败了上海队。

[北京チームが上海チームを破った]

- ③不吃糖 [あめを食べない]”と“糖不吃了 [あめはもう食べない]”について、動作者と受動者の関係における対立はないが、“不吃鸡 [にわとりを食べない]”と“鸡不吃了 [にわとりはもう食べない]”の場合、後者は多義的であり、“鸡”は受動者である場合もあれば、動作者である可能性もある。

②は中国語の語順に関わる問題で、今はとりあえず問題にしないでよいだろう。しかし朱の以上の説明は何

とも茫洋としてとらえ所がない。とどのつまり中国語で受け身文であるかどうかは、受身のマーカーのあるなしではなく、また主語述語の関係でもなく、あくまでも文脈によって判断しなければならないということである。この情報は中文和訳にとっては役立つが、和文中訳の場合にはほとんど役に立たない。必ず受身マーカーを使う場合を特定することはできないのだろうか。

受け身文に対し、中国語母語話者が朱徳熙が言うような語感をもともと持っているとするれば、その中国語母語話者に対し、日本語の受け身文はどのように教えられているのだろうか。

『日本語教育事典』⁷⁾の「受身の表現」の解説は、日本語における受け身文は「**受け手** は **動作主(動作者)** に/から **動詞** れる/られる/される」の形を取り、以下のような約束事があるとする。

- ①無生物は受け手にならないが、不都合な行為については例外もある。

*ドアは先生によって開けられた。

鍵は壊され、室内は荒らされた形跡がある。

- ②動作主が特定の個人ではなく、動作主が何であるかと言うよりも、行われることがらを問題にする場合、その事や物を主語とする受身の表現が使われる。

記念切手が発行された。

- ③主語が他から迷惑を蒙ったという意味を表したい場合に使われる。

この場合主語と動作との関係は間接的である。

動詞が自動詞の場合は、多くは迷惑の意味があるが、そうでない場合(「みんなに喜ばれますよ」)もある。

アンケートの日本語正答の中に①の例はないが、(2)、(5)、(6)、(7)、(8)が②、(1)、(3)が③、(4)は迷惑という感覚はないので、②に入ると考えられる。中国語母語話者の正答率が低かった(4)、(5)、(6)はいずれも②に属していることがわかる。

『みんなの日本語』⁸⁾「初級Ⅱ翻訳・文法解説中国語版」第37課(全50課)の解説では、日本語の受け身文を、文型から以下の五つのタイプに分けている⁹⁾。

- (i) **名詞1(人物1)** は **名詞2(人物2)** に **受身動詞**

(i-1)私は先生に褒められました。

- (i-2) 私は母に買い物を頼まれました。
 (i-3) 私は犬に咬まれました。
- (ii) **名詞1 (人物1)** は **名詞2 (人物2)** に **名詞3** を 受身動詞
- (ii-1) 私は弟にパソコンを壊されました。
 (ii-2) 私は犬に手を噛まれました。
- (iii) **名詞 (物/事)** が/は 受身動詞
- (iii-1) フランスで昔の日本の絵が発見されました。
 (iii-2) 日本の車は世界中へ輸出されています。
 (iii-3) 会議は神戸で開かれました。
- (iv) **名詞1** は **名詞2 (人)** に よって 受身動詞
- (iv-1) 「源氏物語」は紫式部によって書かれました。
 (iv-2) 電話はベルによって発明されました。
- (v) **名詞** から **名詞** で つくります
- (v-1) ビールは麦から造られます。
 (v-2) 昔日本の家は木で造られました。

これをアンケート日本語正答に当てはめてみると、(1)、(3)、(4)、(5)、(7)、(8)が(i)、(2)が(ii)、(6)が(iii)と言うことになる。(3)のような例文に関する言及はないが、文型から考えれば(i)に属すると考えるのだろうか。

さて、『みんなの日本語』(i)～(v)に挙げられたそれぞれの例文を能動文に対応させると以下のようになる。

- (i-1) 私は先生に褒められました。
 先生が私を褒めました。
- (i-2) 私は母に買い物を頼まれました。
 母が私に買い物を頼みました。
- (i-3) 私は犬に咬まれました。
 犬が私を咬みました。
- (ii-1) 私は弟にパソコンを壊されました。
 弟が私のパソコンを壊しました。
- (ii-2) 私は犬に手を咬まれました。
 犬が私の手を咬みました。
- (iii-1) フランスで昔の日本の絵が発見されました。
 フランスで(誰かが)昔の日本の絵を発見しました。
- (iii-2) 日本の車は世界中へ輸出されています。

- (誰かが)世界中に日本の車を輸出します。
- (iii-3) 会議は神戸で開かれました。
 (誰かが)神戸で会議を開きました。
- (iv-1) 「源氏物語」は紫式部によって書かれました。
 紫式部は「源氏物語」を書きました。
- (iv-2) 電話はベルによって発明されました。
 ベルは電話を発明しました。
- (v-1) ビールは麦から造られます。
 (誰かが)麦でビールを造ります。
- (v-2) 昔日本の家は木で造られました。
 昔(誰かが)日本の家を木で造りました。

この結果、(i)(iii)(iv)(v)が直接受け身文、(ii)が持ち主の受け身文で、アンケート設問(3)のような間接受け身文には言及されていないことがここからもわかる。(ii)についての解説には次のように書かれている。

この文型において **人物1 (名詞1)** は **人物2 (名詞2)** の所有物など **名詞3** にある種の行為を及ぼしているが、このような行為は **人物1 (名詞1)** からすれば多く被害を被ったと感ずるものである。(中略) 動作者は人以外のものでも構わない。
 (注1) この文型で主語となるものは動詞の目的語 **名詞3** ではなく、行為の受け手である。(ii-1)は「私のパソコンは弟に壊されました」とは言えない。

筆者の語感では、ここで非文とされている「私のパソコンは弟に壊されました」は、事実を説明する文として違和感はないが、今はそのことは置く。

次に、ここに挙げられた例文について、中国語ではどのような翻訳があげられているかを見てみよう。

- (i-1) 私は先生に褒められました。
 我被老师表扬了。
- (i-2) 私は母に買い物を頼まれました。
 妈妈让我去买东西。
- (i-3) 私は犬に咬まれました。
 我被狗咬了。
- (ii-1) 私は弟にパソコンを壊されました。
 我的计算机被弟弟弄坏了。
- (ii-2) 私は犬に手を咬まれました。

我被狗咬了手。

(iii-1) フランスで昔の日本の絵が発見されました。

在法国发现了日本古代的绘画。

(iii-2) 日本の車は世界中へ輸出されています。

日本的汽车出口到全世界。

(iii-3) 会議は神戸で開かれました。

会议在神戸召开。

(iv-1) 「源氏物語」は紫式部によって書かれました。

“源氏物語”是由紫式部撰写的。

(iv-2) 電話はベルによって発明されました。

电话是由贝尔发明的。

(v-1) ビールは麦から造られます。

啤酒是用麦酿造的。

(v-2) 昔日本の家は木で造られました。

古代日本の房子是用木材建造的。

(下線筆者)

中国語の翻訳文のうち、受身のマーカーがあるのは(i-1)(i-3)(ii-1)(ii-2)である。(iii)~(v)はいずれも能動文に訳されており、(i-2)は“让”を使用した使役文である。孔令敬氏の「中国語は日本語ほど受身を使わない」という感想はこのようなところから生まれるのであろう。

更に『みんなの日本語』第37課の課文から日本語の受身形を拾い、中国語の訳と対照してみる。

(i-4) 子供の時、よく母に叱られました。

小时候常被母亲骂。

(i-5) 今朝、部長に呼ばれました。

今天早晨被部长叫去了。

(ii-3) ラッシュの電車で足を踏まれました。

在上下班高峰期间的电车上被踩了脚。

(ii-4) 出張のレポートの書き方について注意されました。

让我注意出差报告的写法。

(ii-5) 誰かに傘を間違えられたんです。

谁把我的伞拿错了。

(iii-4) 法隆寺は607年に建てられました。

法隆寺是在607年修建的。

(iii-5) ドミニカでは何語が使われていますか。

在多米尼加使用什么语言?

(iv-3) 飛行機はライト兄弟によって発明されました。

飞机是莱特兄弟发明的。

(iv-4) ここは海を埋め立てて造られた島なんです。

这里是填海建造的岛。

(iv-5) イタリア人の建築家によって設計されたんです。

是一位意大利建筑师设计的。

(下線筆者)

受身のマーカーが使われているのは(i-4)(i-5)(ii-3)である。(ii-4)は(i-2)と同様、使役のマーカー“让”を使用した使役文である。(ii-5)が“把”を使った処置文になっていることについては、今は次の説明¹⁰⁾を引用するにとどめる。

意味の点から言いますと、“把”構文、“被”構文ともに、ある主体がある力によってある変化をきたしたということを表します。しかし、“被”構文の「ある力」というのは「外的力」であるのに対し、“把”構文の「ある力」というのは「内的力」ということになります。

“把”構文

小王把衣服洗干净了。

(王君がその服をきれいに洗った。)

“被”構文

衣服被小王洗干净了。

(服は王君によってきれいに洗われた。)

上の例では、同じく“干净了”という変化ですが、“把”構文での変化は“小王”から生じた力によって起こされたものであるのに対して、“被”構文のその変化は主体である“衣服”からすれば“小王”は「外的力」ということになります。つまり、もし“把”と“被”構文が表す重点が動作後の変化にあるとするなら、“把”構文中のこのような変化が形成された原動力は主体にあるのに対し、“被”構文のこのような変化の原動力は外的力にあるということです。(一部例文省略)

アンケート日本語正答が、『現代日本語文法』、『日本語教育事典』、『みんなの日本語』でそれぞれどのように分類されているかを整理してみると以下になる。(表1)

ここから(4)、(5)、(7)、(8)は、日本語のタイプが同じ文型であることがわかる。にもかかわらず正答率に差があるのはなぜだろうか。

また、(i)~(v)の日本語例文と中国語翻訳文

(表1)

| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) |
|----------|-----------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 現代日本語文法 | 直接受け身文 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 間接受け身文 | | | ○ | | | | | |
| | 持ち主の受け身文 | | ○ | | | | | | |
| 日本語教育事典 | 動作主が特定の個人でない／行われる事柄が問題 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 迷惑 | ○ | | ○ | | | | | |
| みんなの日本語 | (i) 名詞1 は 名詞2 に 受身動詞 | ○ | | ? | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | (ii) 名詞1 は 名詞2 に 名詞3 を 受身動詞 | | ○ | | | | | | |
| | (iii) 物/事 が/は 受身動詞 | | | | | | ○ | | |
| 受身マーカーあり | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 使役文 | | | | | | | | ○ | |
| 意味上の受身 | | | | | | ○ | | | |

(表2)

| | | i | | | | | ii | | | | | iii | | | | | | | iv | | | | | v | |
|-----|--------|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 |
| 日本語 | 直接受身 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | △ |
| | 間接受身 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 持ち主の受身 | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 動作 | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ |
| | 迷惑 | | △ | ○ | | △ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 中国語 | 受身マーカー | ○ | | ○ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 使役文 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 意味上の受身 | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | その他 | | | | | | | | | | 把 | | | | | | | | | | | | | | |

を対照させて整理すると、以下のようになる。(表2)

(i) (ii) の場合、中国語ではかなりの格率で受身マーカーが使用されるが、(iii) 以下の場合は受身マーカーをほぼ使わないと言ってよい。と言うことは、日本語の側から見ると、持ち主の受け身文である (ii) を中国語に翻訳する場合、まず受身のマーカーを使うことを考えてよいが、一方直接受け身文 (i、iii、iv、v) の場合は更にその中を細かく分類して考える必要があると言うことがわかる。このことはアンケート中の直接受け身文 (4)、(5)、(6) の正答率が低かったこととも関連するかもしれない。

日本語の受け身文に対して、中国語の受身マーカーを使うか否かに関連して、郭春貴の次のような指摘がある¹¹⁾。

中国語の受身文は大きく分けて2種類あります。

1. “被” を用いない受身文。
例えば、“問題解決了。”
(問題は解決された)。
2. “被” を用いる受身文。

例えば、“自行车被偷了。”

(自転車が盗まれた)。

中国語の受身文は“被”を使うということで、学生は受身文のすべてについて“被”を使ってしまうようです。(中略)

注意してほしいのですが、中国語は受身文にすべて“被”を使うわけではありません。“被”を使う受身文はほとんど不愉快な場合です。不愉快な意識がなければ、日本語で受身の形になっ

ても、中国語では使えません。

また以下のようにも指摘している¹²⁾。

中国語には介詞の“被”“叫”“让”“给”を使えない受身文もある。(中略) 中国語の受身文はほとんど被害を表すものに限られるからである。一般の被害でなければ受身文を使えない。

もう一つ、動詞が自動詞の場合も“被”を使う受身文は使えない。

(下線筆者)

ここから、中国語では被害を感じれば受身のマーカ―“被”を使うが、それ以外は能動文とすること、また動詞が自動詞であれば“被”が使えないことがわかる。再度アンケートに戻ると、被害という気分が感じられるのは(1)、(3)であり、(2)も前後の文脈によっては被害と考えられなくもない。(1)～(3)の正答率の高さはこのことと関連するのではないだろうか。(i)～(v)の例文について見てみても、受身のマーカ―を使用していない(iii)～(v)は被害ではない。では受身のマーカ―“被”を使った(i-1)は被害だろうか。これについて郭春貴は、欧米の言語の影響で、最近は被害でなくても受身のマーカ―“被”を使う傾向が現れている、と言う。だが、中国語の語感を持たない我々日本語母語話者は、とりあえず原則通り、受身のマーカ―“被”は被害を感じた時に使用すると考えておくしかないのではないだろうか。そう考えるとアンケートの設問のうち、被害が感じられる(1)～(3)に対する中国語母語話者の正答率が高かったことも納得がいく。

5. 意味上の受身

被害を感じた時、中国語では受身マーカ―“被”を使用した受け身文にすればよいことがわかったが、既に述べたように、中国語には受身マーカ―を使用しない受け身文、いわゆる「意味上の受け身文」があることが分かっている。次に日本語のどのような表現に対し中国語では「意味上の受け身文」を使用するのかについて考えていくことにする。

再び朱徳熙の言葉を引用する¹³⁾。

主語や述語とは文法上の概念であり、動作者、受動者、間接関与者などは意味上の概念であって、双方は関連を持ちながらも、それぞれ別個の概念であり、混同してはならない。

つまり日本語の受け身文では主語は必ず受け手であるのに対し、中国語の受け身文では「主語」「述語」が必ずしも「動作者」「受動者(受け手)」に対応しないと言う。つまり能動文の形を取りながら、意味としては受け身文になり得るものもあると言うことで、前に述べたように、この文型を『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』では「意味上の受け身文」と呼び、「日本語でもそうであるように、ごく普通の文

としてよく使われます」と説明するが、それ以上の詳しい解説はない¹⁴⁾。

多くの文法書に格別の言及がない中で、張黎・佐藤晴彦¹⁵⁾はこの文型を“被”の省略形であると説明している。それによれば、“被”の機能の一つに「主語と述語の間が『受け手―動作』という意味関係であることを明確にする働きがある」ため、「“被”を省略した時、もし主語と述語の間に『動作主―動作』という関係が無く、単に『受け手―動作』という関係しかなかったら“被”は省略可能」であり、「“被”を省略した時、主語と述語の間に『動作主―動作』という関係があるなら“被”は省略できない」と言い、以下のような例を挙げる。

问题被他解决了。

問題は彼によって解決された。

问题被解决了。

問題は解決された。

问题解决了。

問題は解決された。

那个学生被老师批评了。

その学生は先生に叱られた。

那个学生被批评了。

その学生は叱られた。

×那个学生批评了。

その学生は叱った。

この説明は、日本語母語話者にとっては説得的であるように見える。ただ問題は、“被”は省略されているだけで、意味上の受け身文を“被”を使って言い換えても文は成立するのか、あるいは受身マーカ―“被”を使用した文で上記の条件が満たされれば“被”は省略可能なのか、ということである。アンケートの中国語訳の中で受身マーカ―を使用しない例文についてみると、意味上の受身の形を取っているのは(5) - aのみである。しかしこれは受身マーカ―を使用する形((5) - b)も成立するので、サンプルとしては適当でない。そこで、『みんなの日本語』の受身マーカ―の使われていない(iii)～(v)の例文によってこの問題を考えていくことにする。中国語の訳文で受け手が主語の位置にあるものは、以下の例文である。

(iii-2)日本の車は世界中へ輸出されています。

日本的汽车出口到全世界。

- (iii-3) 會議は神戸で開かれました。
会议在神戸召开。
- (iii-4) 法隆寺は 607 年に建てられました。
法隆寺是在 607 年修建的。
- (iv-1) 「源氏物語」は紫式部によって書かれました。
“源氏物語”是由紫式部撰写的。
- (iv-2) 電話はベルによって発明されました。
电话是由贝尔发明的。
- (iv-3) 飛行機はライト兄弟によって発明されました。
飞机是莱特兄弟发明的。
- (iv-4) ここは海を埋め立てて造られた島なんです。
这里是填海建造的島。
- (iv-5) イタリア人の建築家によって設計されたんです。
(□□) 是一位意大利建筑师设计的。
- (v-1) ビールは麦から造られます。
啤酒是用麦酿造的。
- (v-2) 昔日本の家は木で造られました。
古代日本の房子是用木材建造的。
(受け手下線：筆者)

この中でいわゆる意味上の受身の形を取っているのは (iii-2~4) の例文である。(iv-1~2) に見える“由”は受身のマーカ―ではなく、また (iv) (v) はすべて動詞“是”を用いた判断文である。従って、日本語から見た (iv) [名詞1] は [名詞2 (人)] によって [受身動詞]、(v) [名詞] から [名詞] で [つくります] は動詞“是”を用いた判断文にすればよく、「~によって」は“由”を介詞として使えばよいというとりあえずの結論が導かれそうである。

問題は、(iii-1~5) の中に意味上の受け身文と能動文が混在しているということである。受け身文にするか、能動文にするかの判断基準は何処にあるのだろうか。再度 (iii) の例文を意味上の受け身文にされているものと能動文にされているものに分けて提示してみる。

能動文

- (iii-1) フランスで昔の日本の絵が発見されました。
在法国发现了日本古代的绘画。
- (iii-5) ドミニカでは何語が使われていますか。
在多米尼加使用什么语言?

意味上の受け身文

- (iii-2) 日本の車は世界中へ輸出されています。
日本的汽车出口到全世界。
- (iii-3) 會議は神戸で開かれました。
会议在神戸召开。
- (iii-4) 法隆寺は 607 年に建てられました。
法隆寺是在 607 年修建的。

(受け手下線：筆者)

以上を観察すると、この二つのグループを分けるポイントは、日本語文の受け手（下線部）に接続している助詞、「は」と「が」にあると言えないだろうか。

『日本語教育事典』は「は」について、「取り立てる」機能があると言い、更に取り立てられているものは話し手や聞き手にとって既知でなければならぬとする。これに対して「が」は動作などの主体や知覚の対象などを表すとされ、既知という条件は示されていない。また同書は更に『は』と『が』の使い分け」という項目を立て、「一般的に、『は』は普通の指示で、『が』は未知の物事や新しい情報を示すとかいうように、意味やニュアンスの相違として説かれることが多いのであるが、『は』と『が』は、本来、その構文的機能の上で、非常に性格の違う助詞であるということがまず理解されなければならない」とした上で、その違いについて次のように説明している。

「が」は体言（及び体言相当語句）に付いて、要素成分を作り、その要素と用言・述語との意味的關係を示して、事柄を描き上げ、まとめるための助詞、つまり格助詞の一つである。「が」はその係っていく用言・述語の表す意味（属性、情意、状態、存在、動作、作用、変化など）の主体である物事に付いて、主格及び対象語格を示す助詞である。

「は」は、体言に付くだけではなくて、種々の連用成分にも付き、その部分を後の叙述の前提として示す助詞である。「は」は、その統括するものと、用言・述語との意味的關係（格關係）を示すものではない。「は」はむしろ話し手の述べ方に関係を持つ助詞であり、述語の切れるところに表される話し手の判断・判定にかかわりを持つ助詞である。

(下線筆者)

この説明を上記 (iii-1~5) に当てはめてみると、確かに「意味上の受け身文」となっている (iii-2~

4)の「日本の車」、「会議」、「法隆寺」は既知であることが前提として言われているが、(iii-1、5)の「昔の日本の絵」、「何語」は新たな話題である。「受け身文の主語はふつう既知もしくは特定の人や物です」¹⁶⁾という指摘は“被”を使った受け身文に対してなされたものであるが、これとも通じる事のように思われる。また、「外的力」、「内的力」と区別はされるが¹⁷⁾、“被”構文と、「特定のものを処置する」¹⁸⁾“把”構文の近似性にも通じているのではないか。

6. 使役文

最後に、日本語では受け身文であるのに、中国語では使役文に訳されている三例について触れておく。

(7)毎日薬を飲むように(私は)医者に言われた。

医生叫我每天吃药。

(i-2)私は母に買い物を頼まれました。

妈妈让我去买东西。

(ii-4)(私は)出張のレポートの書き方について注意されました。

让我注意出差报告的写法。

日本語では受け手(下線)であるものが、中国語では主語の位置に来ていない。即ち受け身文ではないのである。これについては、郭春貴¹⁹⁾の以下の解説で説明できるのではないだろうか。

“叫”は目上の人から目下の人に何かさせる時や、同年配の人に頼む時に使われます。(中略)この“叫”を使う使役文は会話ではよく主語を省略します。

(中略)

“让”は目上の人が目下の人に何かさせる時に使います。

(7)の「医者」と「患者」、(i-2)の「母」と「私」の間には、乗り越えることが不可能なある意味での力関係がある。(ii-4)は文中でそれが明示されていないが、「レポートの書き方について注意する」人物は、「注意される」人物よりも力関係において優位に位置していなければならない。「薬をちゃんと飲むように娘に言われた」などという表現もあるが、これは、「娘」が親である「私」に指示したり注意したりできる優位な立場にあることを言葉の上で示すことにより、自分

の娘が親と対等になるまでに成長した事を誇らしく思っていることを逆説的に表現しようとする行為ではないだろうか。

しかしながらアンケート日本語例文「彼女は祖父母にとてもかわいがられている」、「先生にほめられてうれしかった」は、「彼女」と「祖父母」、「(私)」と「先生」との間に力関係が認められるにもかかわらず、使役文には訳されていない。それは恐らく中国語の使役文が「兼語文」であることと関係があるだろう。兼語文にするためには、例えば「かわいがる」が何らかの措置により「彼女」の行為にならなければならない。しかし「かわいがる」はあくまでも祖父母の行為、「ほめる」もあくまで先生の行為でしかなく、それを彼女や私の行為に言い換えることは不可能である。使役文にするためには動詞に制限があるということだ。

7. まとめ

以上の考察から、日本語の受け身文を中国語に翻訳しようとする場合、次のようなことが言えるのではないか。

(1)日本語の以下の文型に属するもののうち、被害を感じる、または被害を主張しようとする場合は受け身マーカ―“被”を使用して受け身文にする。

名詞1(人物1)は**名詞2**(人物2)に**受身動詞**

名詞1(人物1)は**名詞2**(人物2)に**名詞3**を**受身動詞**

(2)(1)の文型に属していても、動作主が受け手に対して力関係の上で優位にある場合は、動作主を主語として使役文にする。

(3)日本語の以下の文型に属するもののうち、受け手に接続する助詞が「は」の場合には意味上の受け身文に、「が」の場合は能動文にする。

名詞(物/事)が/は**受身動詞**

(4)日本語の以下の文型は、“是”を使用した判断文にし、「～によって」は介詞“由”を使用する。

名詞1は**名詞2(人)**によって**受身動詞**

名詞から/**名詞**でつくります

但し問題がすべて解決されたわけではない。以上の

四点はまだ仮説の域を出ないのであって、今後多くの例文を収集し、検証しなければならない。例えば既に述べたように、アンケート日本語例文「彼女は祖父母にとてもかわいがられている」、「先生にほめられてうれしかった」は上記の(2)に当てはまるにもかかわらず、中国語では使役文にできない。使われている動詞が鍵を握っていることはわかったが、本稿では使役文の検討をする余裕がない。いずれも今後の課題としたい。

本稿を作成するにあたり、中国語の例文作成などに関して孔令敬氏のアドバイスを頂いたことを最後に記し、感謝を表します。

註

- 1) シンポジウムは2010年2月27日に大正大学で行われたが、シンポジウムに際しての予稿集がある。『シンポジウム 日本語母語話者の第二言語習得における問題点 ～英語・中国語・韓国語の場合～ 予稿集』(2010年2月、大正大学S L A研究会、非売品)。以後、「シンポジウム予稿集」とする。
- 2) 当該共同研究のメンバーの一人で中国北京市出身、50代男性の中国語母語話者。
- 3) 「……母語干渉の問題は日本語学習者になんらかの影響を与えている。しかしそれは単なる表象にすぎない。その裏にあるものは何かというと、文化理解のことである。ある意味では母語干渉による誤用は文化理解の誤解か不十分などによるものだと考えられる。」(宛金章「言語教育における文化理解とは何か～「母語干渉」と「語境への理解」をめぐって～」:シンポジウム予稿集)
- 4) 相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(1996年、同学社)
- 5) 日本語記述文法協会編『現代日本語文法』2(2009年11月、くろしお出版)
- 6) 『語法講義』(1981年、北京商務印書館)。翻訳は杉村博文・木村英樹訳『文法講義』(1995年、白帝社)によった。
- 7) 日本語教育学会編、1982年、大修館書店
- 8) 1999年5月 スリーエーネットワーク
- 9) 分かりやすいように表現を若干変更した。
- 10) 張黎・佐藤晴彦『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』(2007年12月、アルク)
- 11) 『誤用から学ぶ中国語』(2001年11月、白帝社)
- 12) 馬真・郭春貴『簡明中国語文法ポイント100』(2001年11月、白帝社)
- 13) 『語法講義』
- 14) 相原茂編『講談社中日辞典(第二版)』(2002年)も、「意味上の受動文」に言及するものの、それが一体どのような場合に使われるかについての説明はない。
- 15) 『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』
- 16) 『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』
- 17) 『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』
- 18) 『誤用から学ぶ中国語』
- 19) 『誤用から学ぶ中国語』